

女子学生の家庭環境と将来への希望との関連

———アメリカで学ぶ学生の調査結果———

○岡 佐智子 (大谷女子大)

目的：家族関係が自己形成過程に与える影響を知る目的で、女子学生を対象に育てられ方の実態、将来希望している生き方と家庭環境との関連を調査結果*をもとに考察してきた。ここでは、アメリカで学ぶ日本の女子学生を対象にした調査結果を中心に報告する。

方法：1) 調査時期：平成10年7月から10月 2) 有効回答数 171部 3) 調査項目：①家族との生活についての満足度 ②家庭のしつけ ③親に対する思い ④現在の学生生活 ⑤将来希望する生き方 ⑥アメリカでの生活 4) 調査結果の処理：大谷女子大学のSPSS FOR WINDOWSを用いて処理・分析した。

結果：自分の家庭については、家庭の雰囲気、家族との生活の満足、経済状況はいずれも良好であった。母親には自分に対しての理解や期待が父親より若干高いと感じているが、しつけでは父親の参加率がかなり高い。自立へのしつけが強くなされており、過保護と回答した割合は半数に満たなかった。親との依存では、独立後は親を頼ろうとする者や、親に援助をしようとする割合は低い。将来は結婚後も仕事を継続したい学生は64%おり、中には結婚せず仕事を継続したいと願う学生もみられた。現在の自分に必要なものの項目では、経済力、知性、社交性、資格、自己表現力の順に挙げており、アメリカにきた理由では、英語力、国際感覚、自由な考え、希望する就職の実現、専門性を身につけたいと考えている。アメリカで暮らしていくには、自立心、実行力、責任感、努力が必要であると回答し、甘えが許されない状況の中にいることが推察される。大阪の女子大学に学ぶ学生の結果との比較検討もした。

*日本家政学会第50回大会研究発表要旨集1-Qp-9